

支部長挨拶

(公益社団法人)日本気象学会北海道支部 支部長 長谷部 文雄

第30期の始まりに当たり、支部長を務めさせて頂くことになりました北大・地球環境の長谷部よりご挨拶させて頂きます。支部長という役職、本来であれば管区気象台長にお務め頂く重要な職務ですが、来年度の秋季全国大会北海道開催への対応として、大学サイドでお引き受けさせて頂くことになりました。私自身、適任とは思っておりませんが、理事・幹事長をはじめとする役員の方々や会員の皆様のお力添えを頂き、何とか職責を果たしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

就任に当たり、北海道支部の取り組むべき課題について私なりに考えてみますと、まずは全国レベルでも問題になっている会員減少対策が挙げられると思います。ご存知のように、気象庁関係者の定年退職による急激な会員減少が見込まれる中、どのようにして学会活動を維持・発展させてゆくかが課題となっております。「天気」や「気象集誌」がネット上でほぼ自由に閲覧できるようになり、会員になることのメリットを感じ難くなる中、どのようにして若い会員を惹き付けてゆくかは難しい問題です。同時に、大学を巡る環境は厳しさを増しており、いわゆる重点化により拡充された教育環境が、少子化の時代に重荷になっているというのは、全国共通の課題です。

こうした状況に鑑み、支部として可能な対策を模索するのは我々の世代に課された任務と言ってよいでしょう。学会の魅力を高めることが何より重要であることは言をまちませんが、具体的に何が出来るかは難しい問題です。考えられる方策の一つは、学会という枠組みが、気象に携わる社会人と教育・研究機関たる大学との連携の場を提供することにあると思います。具体的には、業務として気象学に携わっている社会人に対してスキルアップ・視野拡大に役立つような議論の場を大学が提供すること、気象学に関連した職を志す学生に対して実務の場を身近に感じる機会を提供することにより大学・大学院教育の魅力を高めることなどが考えられるかと思えます。学会の目的である「気象学の進歩を通じた社会への貢献」として直接的に期待されるものが、気象庁と大学とで異なることは事実ですが、両者の連携はそれぞれが単独では成し得ない実りをもたらすものと思えます。毎年、春と秋に開催される支部研究発表会は、こ

うした観点からもっと充実させるべきものと考えますが、なかなか越えられないハードルも残っているように見受けられます。

このような現状を打破するには、日頃のおつきあい、相互訪問の機会を増やすことから始めるのがよいのではないのでしょうか。例えば、日々気象業務に励んでいる方々に、もっと気楽に大学を訪問して頂く。もちろん、職務に差し支えない範囲に限られますが、大学で開催されるセミナーに参加して頂くことなどは、比較的容易に実現できるのではないのでしょうか。逆に、予報業務の一端を学生に見学させて頂くような機会がもてれば、学生にとってよい刺激になることは間違いありません。さらなる発展として、現場で気象関係の業務に携わりながら、同時に大学院生として研究指導を受けることによりスキルアップを図る方策はないものだろうかなどと考えております。気象業務従事者に対する生涯学習への橋渡しや大学院教育の活性化に貢献できるような学会活動を目指し、会員の皆様と知恵を出し合いながら努力したいと考えております。

以上、簡単ですが支部活動の活性化にむけ会員の皆様の積極的な関与をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。